

やめたいのに、やめられない 駅前のアパチンコ

パチンコ依存症は”癖(くせ)”ではありません。これは治療の必要な病気です。

あなたのご家族や友人に、毎日のようにパチンコ店に入り浸っている人はいませんか。そんな人がいたら、「パチンコ依存症」を疑ってください。パチンコ依存症は“癖”ではありません。“癖”なら、本人の努力次第で改善することができます。しかし実際には、パチンコをやめたいと思っても、どうしてもやめられなくなってしまっている、本人の意思ではもはや自分の衝動をコントロールできなくなってしまった状態、これはまさしく心の病気です。WHO（世界保健機関）は「ギャンブル依存症」を治療の必要な精神疾患として認定しています。そのギャンブル依存症の中でも、最も進行性が高く恐ろしい病的賭博（とばく）のひとつが「パチンコ依存症」です。パチンコ依存症の最も悲劇的な点は、本人自身の人生を破滅へと追い込むだけにとどまらず、多くの場合、その配偶者や親や子供らといった家族まで巻き添えにされてしまうことです。さらには、パチンコが原因とされる事故や事件が増加し治安の悪化を招いてきました。母親がパチンコに熱中するあまり駐車場に停めた車に閉じ込められていた幼児が熱中症で死んだ事故、パチンコ代欲しさに窃盗や強盗殺人に及ぶ事件。パチンコ依存症は人格までも破壊する恐ろしい病気です。「パチンコがしたい」という衝動を抑えきれず情緒が不安定になり、かつて子供好きだった人が自分の子供に愛情が持てなくなり、仕事熱心だった人が会社をサボるようになり、誠実だった人が嘘をつくようになります。パチンコに関連した事件・事故は、本人自身の問題というより、パチンコ依存症という病気によって引き起こされた可能性が高いと考えてください。ある調査によると、現在、**パチンコで遊ぶ人の数は約1千3百万人とされ、そのうち治療の必要なパチンコ依存症の患者数は、少なく見積もっても200万人を突破していると推計されています。**その200万超のほとんどの人々が、自分が病気であるという自覚（＝病識）もなく治療を受けず、借金を重ねながらパチンコ店に通っています。しかも本人の心の中では、「パチンコをやめたいけど、どうしてもやめられない」と悩み、そして時には「いつかはやめられるさ」と諦めと開き直りの感情を抱きながらです。パチンコ依存症の患者たちは、やめられない自分の意思の弱さを責め、次第に激しい自己嫌悪に陥り、最悪の場合、自殺を選ぶようになります。この国は、恐ろしい精神疾患を招く危険なパチンコを長い間放置してきた一方で、タバコは健康を害するという理由から排斥してきました。であれば、タバコよりはるかに有害なパチンコを公衆衛生（精神衛生）の観点から早急に見直すのは、しごく当然のことです。

1年間で、ひとり平均160万円をパチンコに使っています。



パチンコで遊ぶ人口が1千3百万人と先に述べましたが、ひとり当たり、どれくらいのお金をパチンコに使っていると思いますか？驚くべきことに、ひとり当たり1年間で160万円です。彼らの年収は、いったいどれほどなのでしょう？パチンコに年間160万円も使うことができるほど経済的に余裕のある人たちなのでしょう？いいえ、実際にはそうではないようです。生活保護費や年金の支給日になると、パチンコ店のその日の売上がいっきに上がると言われています。射幸心を煽られ、少ない金を元手にパチンコで増やそうと躍起になる客。負ければ負けたで、その負け(裏面へ)

をまた同じパチンコで取り戻そうとする客。結果、ひとり平均で年間160万円もの大金をドブに捨てているのです。すぐに手元の金は無くなり、サラ金から借りてまでパチンコをやる。やがて数百万、数千万円の借金を抱えていきます。ある人は私に問います。「ギャンブルにはパチンコ以外に競馬や競輪などいろいろあるが、なぜパチンコばかりを叩くのか」と。私は答えます。「パチンコは競馬や競輪などの公営ギャンブルとは根本的に違う」と。その理由を挙げると、まず競輪・競馬などはレースが開催される日がひと月に数度と限られていること。さらに開催場所は首都圏でも数ヶ所に限られ、観戦に行くには電車などの交通機関を利用しなければならないこと。つまり、**公営ギャンブルにおいては、こうした不便さが「ハードル」となって、賭け事にのめり込みがちな心に歯止めをかけている**のです。しかし、一方のギャンブル・パチンコは、駅前や商店街といった身近な場所にあり、連日休みなく朝10時に開店し夜11時まで営業を続け、人々にとって手軽なギャンブルとなり、さらには、人気のアニメやドラマをキャラクターとして用いた新台を次々に投入し、テレビ・コマーシャルを打ち、さかんに射幸心を煽っています。その結果、パチンコで遊ぶ人たちの心の歯止めが効かず、パチンコ依存症という精神疾患をまん延させてきたのです。競馬や競輪などの公営ギャンブルは、国や自治体によって運営され、その収益は国庫や地方に納付され地域の福祉を支えてきましたが、パチンコは、私設のバクチ場として連日休みなく朝から晩まで経営者側の不健全な形によって、あくまで経営者側の私的な利益をひたすら追求してきたのです。

東電管内のパチンコ店の電力消費量は415万 kW、一般家庭43万世帯分。

東京電力管内の主な産業や施設などの電力消費量

主な産業、製造業、生活	1日あたりの電力消費量	一般家庭換算の世帯数
自動車・電機など	4617	476万
化学	2470	255万
鉄鋼	1753	181万
鉄道	1726	178万
食品	1530	158万
パチンコ	415	43万
飲料自販機	400	41万
東京ディズニーリゾート	57	5.9万
東京ドーム プロ野球1試合	4	0.41万

万キロワット

左の表は、読売新聞3月24日朝刊の計画停電についての記事の中で使われた「東京電力管内の主な産業や施設などの電力消費量」の一覧表です。これによれば、東京電力管内のパチンコ店が消費する1日あたりの電力の量は415万 kW、一般家庭に換算すると、約43万世帯分に相当します。参考までに言えば、人口88万人の世田谷区がちょうど約43万世帯。**東京電力管内にパチンコ店は約4千店。この4千店が世田谷区の43万世帯と同じ量の電力を消費している**ことになります。この新聞が発行された3月24日時点での

の東京電力の電力供給量は約3700万 kW。当時、パチンコ店が節電なしに営業していたと仮定すると、電力供給量の約10%以上をパチンコ店が消費していたこととなります。4月半ばにおいても、駅ホームのエスカレーターは節電のため停止されたままです。電車の中の空調もオフになったままです。ちなみに、**事故を起こした福島第一原子力発電所の1号機から6号機までのフル稼働での総発電力は470万 kW** だそうです。

自動車産業全体の売上40兆円、パチンコ業界は21兆円。

パチンコ業界の年間売上は約21兆円で、自動車産業全体の売上が約40兆円と聞けば、パチンコ業界の売上がいかに巨大であるか理解できます。自動車産業は、日本の基幹産業として輸出され外貨を稼ぎ日本経済を潤し、国民生活を豊かにしますが、パチンコは何を生産しているのでしょうか。パチンコが生み出しているものは、依存症で苦しむ患者の増大と家庭の崩壊、そして治安の悪化だけです。社会の不幸のみを生産するパチンコをこれまで通り営業を続けさせてよいものでしょうか？3月11日の大震災を機として、いま一度、考えてみるべきだと思います。パチンコに興じる1千3百万の人々が投じる21兆円ものお金をパチンコ以外で使ってもらえれば、この国の経済は、瞬く間に活性化し、大震災からの復興を見事に遂げることができるのです。1年間にパチンコに使う160万円で、新しい自動車を買ひ、電化製品やインテリアを揃え、家族や友人たちと旅行や外食を楽しむことによって、そこに新たな市場が出現し、そこに産業が起り、雇用が創出されることになるでしょう。**かつては、韓国や台湾にもパチンコがありました。しかし、「人間を怠惰にして、人生を狂わせる」という理由で全面的に禁止**されました。パチンコによって狂わせられたままの国、それが日本です。日本社会を内側から蝕（むしば）んできた元凶、それが駅前のアヘン、パチンコなのです。